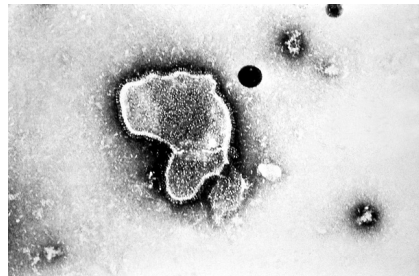


*** 今日の健康 (11月) *** < RS ウイルスワクチン >

RS ウイルス感染症下気道炎を引き起こすウイルスで、対するワクチンは 50 年以上前から研究開発が進められてきましたが今まで実用化していませんでした。近日中に 2 社から RS ウイルスワクチンが販売される見込みです。

2023 年 8 月米食品医薬品局 (FDA) は、米製薬大手ファイザーが開発した RS ウイルスワクチンを承認しました。乳児が RS ウイルスに感染すると、肺炎などの重症となる場合があるため、新生児・乳児の下気道疾患予防を目的とし、新生児保護の目的で妊婦へ接種するワクチンです。承認されたのは妊娠 32~36 週の接種で、生後 6 カ月まで乳児の感染と重症化を防ぐ効果があります。 RS ウイルス=米疾病対策センター (CDC)



また英国 GSK (旧 GlaxoSmithKline) 社は 60 歳以上を対象とする RS ウイルスによる下気道疾患の予防を目的とした RS ウイルスワクチン「Arexvy」を日本で発売準備中です。

< 乳幼児における RS ウイルス >

乳幼児では 2 歳までにほぼ 100% が罹患するとされており、世界では感染症の死亡原因としてマラリアに次ぐ第 2 位とされています。先進国において乳幼児の死亡はさほど多くなく、米疾病予防管理センター (CDC) によれば、米国では毎年 5 歳未満の乳幼児の推定 5 万 8 千~8 万人が入院し、100 人~500 人程度の死亡があると推測されています。一方で、成人では 1 万 4000 人が死亡しているとされ、日本では新型コロナウイルス感染症流行前の 2018 年に 10 人、2019 年に 11 人の死亡が報告されています (年齢不明、人口動態統計)。

< 高齢成人における RS ウイルス >

高齢成人では、加齢に伴う免疫力低下などのため重症化リスクが高く、基礎疾患のある高齢成人ではより重症化するリスクが高くなるといわれています。RS ウイルスにより、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、喘息、慢性心不全などの病態が悪化し、肺炎、入院、死亡などの重篤な転帰につながる可能性があります。米国では毎年、RS ウイルスによる 65 歳以上の成人の入院が約 177,000 例、死亡が 14,000 例と推定されています。60 歳以上の成人では、入院に至る可能性のある重度の RS ウイルス感染のリスクが高いことがデータから示唆されており、基礎疾患のある成人では、基礎疾患のない成人と比較し、受診する可能性が高く入院率も高くなるといわれています。日本の 60 歳以上においては約 63,000 例の入院と 4,000 例の死亡原因であると推定されています。

参考：RS ウイルス感染症予防注射としてシナジスがありますが、シナジスは通常の予防接種で行うワクチンではなく、RS ウイルスに効果がある抗体成分を精製したもので効果の持続は約 1 ヶ月で流行期の間、接種適応要件を満たす対象者に毎月投与する必要があります。